

平成26年度 南アルプス市立若草小学校 第一回自己評価書

平成26年8月20日作成

校長： 森田 亨	記述者・職名： 横小路 豊・教頭
本年度の学校教育目標 ○かしこい子ども ○美しいものに感動する子ども ○思いやりのあるやさしい子ども ○たくましく生きぬく子ども	
本年度の学校経営基本方針 (1) 「生きる力」を育むために調和のとれた教育課程の編成と円滑な実施に努める。 (2) 確かな学力を育むための指導と評価に努める。 (3) 豊かな心を持った人間味あふれる子どもの育成に努める。 (4) たくましく生きるための健康と体力の向上に努める。 (5) 家庭や地域社会との連携のもとで、安心・安全で信頼される学校づくりに努める。 (6) 教職員が相互に協調・信頼し合い、創意と活気に満ちた学校づくりに努める。	
I 評価方法	
<p>児童，保護者，教職員の3者に対して，アンケート用紙により回答を得た。 質問に対しての回答選択肢は基本的に4段階になっている。</p> <p>A：とても・よく～している B：だいたい～している C：あまり～していない D：～していない</p> <p>の4段階で，このうちAとBは肯定的なプラス評価であり，CとDは否定的なマイナス評価である。AとBのどちらを選ぶか，CとDのどちらを選ぶかについては，回答者の判断材料の有無・性格・回答時点の状況等が関係するため，A・B・C・Dを厳密に区別して集計することよりも，A・B合わせてのプラス傾向，C・D合わせてのマイナス傾向として集計する方が，全体的な傾向をつかみやすくなる。</p> <p>そこで，各項目の回答に占める「A・B」の割合、「C・D」の割合を求め、</p> <p>○「A・B」の割合が大きいほどプラス評価 ○「C・D」の割合が大きいほどマイナス評価 と判断をした。</p> <p>なお，保護者のアンケートには回答の選択肢として E：わからない があるが，これは点数には含めていない。</p>	

Ⅱ 全体評価

「Ⅰ 評価方法」で説明した回答の平均点数により傾向をみると、つぎのような評価になる。

児童のアンケート結果では、14個の質問項目中、10個の項目で、プラス評価が90%以上になっている。

保護者のアンケート結果では、24個の質問項目中、12個の項目で、プラス評価が80%以上になっている。(うち90%以上は6項目)

教職員のアンケート結果では、30個の質問項目中、27個の項目で、プラス評価が90%以上になっている。

児童と教職員では、ほとんどの項目でプラス評価が90%になっていることがわかる。保護者の評価は、プラス評価が90%以上のものは6項目だが、全体的には70～80%以上の評価がほとんどを占めている。

児童・保護者・教職員とも、すべての項目において、プラス評価がマイナス評価を上回っている。

全体的な傾向は以上のようなものであるが、中にはマイナス評価が目立つ項目もある。児童、保護者、教職員それぞれの回答から見えてくるものについて、以下の「Ⅱ 各回答者ごとの評価」で考察し、課題を明らかにしていくことにする。

Ⅲ 各回答者ごとの評価

1-1 児童の回答におけるプラス傾向の項目について

児童の回答項目中、プラス評価のものを上位から選ぶと、次のものになる。

最初の番号は、アンケートの項目番号である。

6「先生は自分たちのことを大切にしてくれていると思いますか」

(A・B : 98.6% C・D : 1.4%)

11「掃除がしっかりできていますか」(A・B : 97.0% C・D : 3.0%)

12「学級の係や当番の仕事をがんばっていますか」(A・B : 96.8% C・D : 3.2%)

1-2 児童の回答におけるマイナス傾向の項目について

児童の回答項目中、マイナス評価が多い傾向にあるものを上位から選ぶと、次のものになる。最初の番号は、アンケートの項目番号である。

7「授業中に発言や質問または意見を言うことをしますか」(A・B : 74.0% C・D : 26.0%)

【考察】

グループ内では発言できていても全体の前では発言できない子がまだまだいる。発言をする子が固定している。間違いを恐れずに、何でも言える学級の雰囲気づくりに努めたい。高学年になるほど、発言したがる子が増える傾向がある。

【改善策】

子どもたちが自分の考えを持つことができる授業の工夫をし、その考えを発表する機会を増やしていく。発表しやすい学級の環境づくりをしていく。校内研究ともからめて、指導方法の工夫をおこなっていく。

9「家庭で宿題や自主学習を合わせて◇◇分していますか」(A・B : 76.4% C・D : 23.6%)

【考察】

学年の数字×10(例:6年なら6×10=60分)の時間、家庭学習をすることが定着していない。宿題の他に自主学習をおこなうところまでいっていない。保護者の協力が必要である。家庭学習の必要性や大切さを保護者に理解してもらう必要がある。

【改善策】

家庭学習の必要性や大切さを保護者や児童に理解してもらうようにする(学校便り、学

年・学級だより、など)。家庭学習強化期間の回数をふやす。学校全体の強化期間だけでなく、学年単位での強化期間も設け、家庭学習の意識化と定着をはかっていく。

14「あなたは悪いことをしている人を見たら注意しますか」(A・B：86.1% C・D：13.9%)

【考察】

子どもにとってはむずかしいことかも知れない。しかし、善悪の判断ができる子、注意する勇気を持つ子であってほしい。

【改善策】

道徳とも関連させ、正しいことを行う勇気の大切さや素直に間違いを認め直すことの大切さを育てていきたい。いけないことはいけないと正しいことが通る学校・学級、注意されたら直すことが自然にできる学校・学級であるような環境・雰囲気を作っていきたい。また、どのように注意したり声をかけたりすればいいのかを児童に教えてあげることも大切である。

2-1 保護者の回答におけるプラス傾向の項目について

保護者の回答項目中、プラス評価が多かったものを上位から選ぶと、次のものになる。最初の番号は、アンケートの項目番号である。

4「学校は、保護者や地域との連携を図りながら特色ある教育活動を行っている。」
(A・B：95.3% C・D2.3%)

7「学校は、授業参観や学校開放日等で、子どもの様子を見る機会を設けている。」
(A・B：95.3% C・D4.7%)

21「(私は) 授業参観や学校行事には、積極的に参加している。」(A・B：93.0% C・D4.7%)

22「(私は) 子どものしつけや基本的な生活習慣(早寝・早起き・朝ごはんなど)に注意を払っている。」(A・B：95.3% C・D：4.7%)

2-2 保護者の回答におけるマイナス傾向の項目について

保護者の回答項目中、マイナス評価が多い傾向にあるものを上位から選ぶと、次のものになる。

最初の番号は、アンケートの項目番号である。

12「学校は、個に応じた指導で学力向上を図っている。」(A・B：59.5% C・D：38.1%)

【考察】

TT授業、取り出し授業、休み時間や放課後の個別指導等により、担任は出来る限りの子に応じた指導を行っている。そのことが、保護者に理解されていないのではないかと。さらに子に応じた指導を行っていきたいが、加配の人数も年々減り、人的にきびしい部分もある。

【改善策】

学校からの便りや、懇談会などを通して、若草小学校で行っている個に応じた指導の状況について、保護者に理解してもらう必要がある。

加配教員や市単教諭の増員を行政にはたらきかけていく必要もある。

18「学校の施設・設備は適切に整備されている。」(A・B：67.4% C・D：27.9%)

【考察】

学校の施設・設備が老朽化してきている。エアコンの設置、トイレの狭さなども改善してほしいことである。

【改善策】

保護者から見ると、年間何回か学校に来た時に目に入るもので気になることもあるのではないかと。小さなことだが、児童の机の穴や椅子のささくれ、壁や床のはがれ、ガラス窓

のモールの痛み、等々。安全点検を丁寧に行い、補修が必要なところは早めに補修をおこなう必要がある。予算の都合もあるので、軽微なものは学校で対応をし、難しいものは業者に依頼してよい環境を保っていきたい。エアコンの設置やトイレの充実など、大きなものについては行政に要請していく必要がある。

16「学校は、子どものまちがった行動を厳しく指導してくれる。」

(A・B : 76.7% C・D : 23.3%)

【考察】

子どもの間違った行動を厳しく指導してくれることを期待していることのあらわれではないか。社会のルールやマナー、いじめ問題にも関係する大切なことである。悪いことは悪いときちんと叱ったり、子どもの心に響くように説明したりすることを根気強く行っていく必要がある。

【改善策】

良いことは誉めて認め、悪いことはきちんと叱る。学校内の生活上のルールを再確認して、教職員による差のない指導をおこなう。愛情をもって子どもに接しながら、指導をおこなっていく。

15「学校は、いじめのない学級づくりに取り組んでいる」(A・B : 76.7% C・D : 20.9%)

【考察】

学校では、いじめのない学級づくりに取り組んでいる。しかし、保護者からすると、なおいっそうの取り組みを望んでいるのだろう。保護者の不安感を取り除いていきたい。

【改善策】

日々の児童のようすや人間関係に気を付けて指導を続けていきたい。いじめの早期発見アンケートやQ・U検査(学校生活における児童生徒の意欲や満足感、および学級集団の状態を測定するテスト)を用いて、問題の早期発見に努め、課題を解決していきたい。

8「子どもは、学習内容をわかると言っている」(A・B : 79.1% C・D : 20.9%)

【考察】

児童のアンケートの5「学校の授業がわかりますか」では(A・B : 94.0% C・D : 6.3%)という結果になっている。また、保護者のアンケートの9「学校は、子どもに基礎的な学力が見に付く指導をおこなっている」では(A・B : 88.4% C・D : 11.6%)という結果になっている。その2つの結果に比べ、この質問の回答はマイナス評価が大きくなっている。保護者は子どもとの会話を通して、学習内容がわかっているかということに気にかけていることのあらわれではないか。

【改善策】

学習内容の確実な理解や学力の向上を、保護者は期待している。授業を中心にして、確かな学力をつけさせるために努力していきたい。

3-1 教職員の回答におけるプラス傾向の項目について

教職員の回答項目中、プラス評価が90%以上になっているものが、30項目中27項目ある。教職員が自信と責任をもって、仕事に取り組んでいる姿勢がうかがえる。

3-2 教職員の回答におけるマイナス傾向の項目について

教職員の回答項目中、マイナス評価が多い(マイナス評価が10%以上ある項目)について考察してみた。

(最初の番号は、アンケートの項目番号である。)

7「本校では、職員会議が能率的・建設的に運営されている。」(A・B : 75.0% C・D : 25.0%)

【考察】

教職員の自己評価項目の中では、もっともマイナス評価が大きくなっている。職員会議で検討する議題や内容が増えているため時間内に終わらないことがある。開始時刻に会議が始まらないこともある。前回までの確認事項がはっきりしないで、それを再び確認するようなこともしばしばあった。全校に関わる提案や、前年度から内容の変更がある場合には、じゅうぶんに経過や内容を事前に検討して提案をつくることが望まれる。

【改善策】

提案資料の作成に可能な範囲で時間をかけ、一人で作った原案を提案するのではなく、あらかじめ管理職や主任会議、運営委員会、実行委員会とともに検討をして原案を作る。昨年までの反省や改善点を盛り込んだ提案資料にする。資料はできるだけ会議前日までに配布し、あらかじめ目を通しておけるようにする。連絡事項、協議事項を明確にして、時間配分をおこなう。職員会議全体の計画を立てている主幹教諭が、会議スケジュール、内容等を早めに確認して関係職員との連絡・調整・補助資料の準備を確実にいき、能率的な職員会議をおこなう。

十分に時間をかけて検討するものについては、長期休業中におこなうことも考えられる。

15「私は、家庭学習を定着するために工夫している。」(A・B：88.0% C・D：12.0%)

【考察】

学力の向上には、学校の授業だけではなく家庭学習も大切である。家庭学習推進期間を設定したり、学年や学級の便りを通じて、家庭にもその大切さを知らせている。ただ、家庭や児童によって姿勢に差があり、学校全体としての家庭学習の定着には、まだ工夫が必要であると考ええる。

【改善策】

家庭学習の意義や取り組み方について、保護者の理解や支援がさらに得られるようにしていく必要がある。家庭学習推進期間を設ける回数を増やしたり、文書、学年・学級だより、連絡メール等も使ったりして、家庭に呼びかけをしていき、全校での意識をさらに高めていく。

8「本校では、校内研究が今日的課題に対応して、有意義に行われている。」

(A・B：88.9% C・D：11.1%)

【考察】

昨年度までは、研究指定校として学校全体として意識を高くして取り組んでいたが、今年度は研究指定校でなくなったためか、意識が低くなっているかも知れない。各ブロックに研究が任されているためか、全体で研究を進めていく方向にわからない部分がある。

【改善策】

研究主任・研究推進委員を中心に、全体とブロックとの関係を確認しながら、2学期以降の校内研究を進めていく。

Ⅳ ま と め

「Ⅱ 全体評価」で説明したように、アンケート調査の結果を見ると、児童・保護者・教職員あわせ、すべての項目でプラス評価がマイナス評価を上回っている。日常行われている教育活動を継続していくことが大切であるといえる。

しかし、マイナス評価が大きい割合になっているいくつかの項目や、日ごろの教育活動から感じられることから、1学期の段階で課題となっていることがある。

それらをまとめると、次のようなことになる。

○授業中の発言や質問または意見を言う機会を増やし、発表しやすい環境づくりに努める。

授業中に発言や質問、意見を言うことをさらに増やしていきたい。自分の意見を発表して友だちと学び合うことは、学力を向上させる上でも大切なことである。また、安心して発表がおこなえる雰囲気のある学級をつくっていくことは、互いを認め合うことにもなり、いじめのない学級づくりにも通じている。

○家庭学習を充実させる。

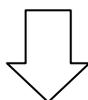
学習内容の定着や学力の向上において、家庭学習は大事な働きをしている。現状、家庭学習の状況には個人差が大きい。家庭学習推進期間の設定回数を増やしたり、家庭学習の内容や方法を工夫したりして、家庭学習を充実させていきたい。保護者の理解と協力ももめたい。

○学校で行われている教育活動について、家庭に知らせる量を増やす。

保護者アンケートの結果を見ると、学校で日常行われている教育活動について、知られていないことが多いことに気づく。授業参観や学校開放日、部会、個別懇談も設けているが、年間の数少ない機会の中で知る内容には限度がある。学校だよりや学年・学級だよりなどを通して、学校の教育活動について伝える必要がある。そのことが、学校に対する保護者の理解と協力にもつながっていく。

○職員会議や校内研究を効率的に行う。

効率的な会議の運営をおこなうことで、余裕も生まれる可能性がある。その余裕が充実した教育活動にもつながっていく。担当を中心に会議の方法を見直し、効率的におこなっていく。



以上のような課題から、特に今年度取り組む重点課題を次のようにまとめた。

- 授業中の発言や質問または意見を言う機会を増やし、発表しやすい環境づくりに努める。
- 家庭学習を充実させる。
- 学校で行われている教育活動について、家庭に知らせる量を増やす。
- 職員会議や校内研究を効率的に行う。